

## C-1 おばあちゃん達の言(げん)や善し

権利者とかその家族の方々と話を交わしていると、時として本題とは別の、時としてインパクトのあるとても素敵な言葉に出逢う場面があります。

今回は、そうしたものの内、おばあちゃん達から教えられた、担当地区毎で最も印象的な『心のともし灯』のような三点を拾ってみました。どれも実話です。

《農家住宅の縁側で… (研究学園都市にて)》

○ …それはそうとして、あんたの処は子供さんはいるでしょ。

⇒ はい！ キカン坊が一人います。

○ 一人じゃ駄目だよ。もう一人、二人いないとヨ。一人は交通戦争に出さねばならない世の中になってきてるんだから…。

【後日譚； 当時、現実を見据えたその素晴らしい達観に圧倒された。

このアドバイスもあってか、なくてか、現在出来の悪い坊主が二人です。】

《よもやま話の後で… (多摩ニュータウンにて)》

○ “寝付きが悪い”と思ったら、その日誰かの悪口をいったり、責めたりした事がなかったか、思い返してみるといいネ。

眼をつむったその時に、キット、わだかまっていたものが暗くなったのを見計らって、頭の中から転がり出てくるンダと思うヨ。

【後日譚； 全くこの通り！ 眼を閉じるとその日の出来事が走馬灯のようです。

今も寝付きの悪い日は多い。尤も、近所の犬の遠吠えのせいもあるのですが。】

《中断移転仮住い住宅にて (港北ニュータウンにて)》

⇒ 仮住まいも長くなってしまい、申し訳ないですね。

○ まあ、気の持ち様で、いい体験ができたと思うようにしているよ！

⇒ 戦争とか大勢のご家族を守ったり、突然のニュータウンの移転とかで、気苦労多かったことでしょう。

間もなく、仮換地に新しい家が出来て、愈々引越しですね。これからは安定した老後ということで、幸せを取り返してください。

○ なに！ 今で十分、これ以上は“あと、こぼれるだけだから。”

【後日譚； 以降、常にプラス・マイナスの軸と、己の枿の量を考える習性が身についてきた感があります。】

以 上